





百人前諸抄大成卷三

元禄六年追七百余年

大中臣能宣

伊勢祭主

後撰者梨壺五人之一人

佐物云天兒屋根命より廿八代云六位上晴道の孫祢祢之副

祭主頼基子也

大中臣姓ハト部説云天兒屋根命十八世孫常盤大連

公云云人申臣被を欽明天皇より授けにたりて始て中臣の姓を賜ぬ大職

冠ハ耐蘇尔の姓とあり大職冠

鑑是三男國子大連の子意義

唐亦中臣とありて神護景

雲三年に意義唐乃子清唐

中納言に仰て始て大中臣と

る云云云清乃六國子大連可多

能祢大連の子也

後撰者梨壺五人の一人

大中臣能宣

みくはより

あづはより

あいのり

ひはら

あはれ

あはれ



云系譜丹八神祇大副云去松菰抄云四位正曆三十八年九月二十三日
八雲山抄本と元補註宣永梨壺の中に可然哥人との有
約集意上より云々云々とりと八雲抄云内裏の山垣をま

ところもの愚案林申此門をさる東門ならん或は勝もれ若山垣
 りりととり主忠峯始近勝の義長なりと故東門の府
 せより事と及今のを故母ならんものなりと故近
 秋の事なるにあさむきもてみふなりとの東門なりとさきより
 と語り勝吉はげ東門府乃下に東の義は無をきく故なりと
 ゐん序の東とやうく違ひささひいひねをさるなりとも
 ゆうと云さうもゆふもさすすて登ハさひんぬと云ひみて
 さいをさるん所なりきと云祇云東といひ登といひさいのさ
 まさぬ故なりと云ひて足傳ふなり 中務某 みふより勝土
 のあゝ火よりわねともわきもの内よりこころと云

七百零五

藤原義孝

号後少將 見拳賢
号前少將故也

臣抄云謹德公三男母中務

代明親王女右少將從五位下

春宮亮スル云柴花物語花山

卷云はのかねおさきよりい

みしくなつて泣

欽定古今圖書集成

又て法作よりなりなま

一どのをかきうへん

草云云在云妻袋

契一物を以て所爲

あつてゐるやうに

孝子 楊松達 八冊 姜之

まゝなつて神ぬきとせん

前系考

美々々々

あ

56

三

ガ

卷八

六

子之晉也

て、

人言

西

有

首并蓬萊宮裏月今遊松樂



て陸奥守は威ありて隠れぬひくばせすとも最上のつこめ
の甚む益すべしと云々權の有りてふありきなり修るなり実を
乃中抱のたに成多はぬおひのうておはとやとヤも激し
ゆへとえよはけりしもと衆の貴人令修るや云云は抑え或流云
実方登^か修の乃祖神のおを下さるべきと成りまうされん
休あそくるをされて実方卒と云今み実方の廟に社
のふわりわりの云々 彰た今氣傷なりふちのくして廣
き飛中は実の塚としてありきなり又舊宅とおひらんとく
ふちもうとめてあるたり城とめ置く旅のすきと云云
凡そ西法は陳々修るにたり累記しく及ね差外之補
わたりよりありきなりふちりそ名お云或人云構の中
みちのくのみをもてさるる時より月日なる寂かなん候と
字まれあやきてそれと云其田庄の官云は必よハびり
すりきよくつばかりと云事と云くも云々と云中抱の旧殿乃

市時々ふあめく物被りてあまといりなれはふふふあや先
 をきうとやいりなりて時々ふあさの信乃をいふこと云物あ
 らはうきとあまといりよりくさそめて信乃といひまゐる
 の信被と云ふ実方の事と云云 童蒙抄同く

極松透一女子はていひつけき云かとすにえや
 いきとてあま事いさくをふてか、あせたまえやハ、い
 ねとやめらる三光院にたえやと白切くえもいひる
 たとくおてみさひをきき母なるの自地みるや六
 秋をよむく候快ハ云云、通英彦さうもあまあり
 云云（内物同）さうもあまハ差蒿（蒿）抽中あたう三光下張り蓮心さう
 もあじをいなんこめさうもあまとときてをさけ金
 治は有り物なれはゆかりいと大よりく候多さうも
 ちじをいさやうにかりともちじをといふんハむねり
 あまろあひをもえいひやねハさうもいさやうちんとい

實は心の如く心の中をさぐるといひのふたつの中にあらず
 解云け候へば義湛近江のさういふふまへ下敷と玉の
 候所のさう因伸元義又わらう考六帖云あちまたに
 みのふりきも孝と云ふ又つむて諫れども信の御ても
 う双済と云ふことや下敷と云ふといひるふよりい
 うらぬのをさもあらう候所のさういふことを云ふ
 是亦一説授かりといふ八文之有木の由説近江と傳へ
 うハ當流用し申作傳——

藤原道信の長男、初め九条、太兼相師、輔公孫恆徳、
四男也。母謙徳公女。左中將從四位上。正暦五年卒。三
栗田
関白道兼の養子とあり。うゝ栗田物部とてぬ。又栗田
あり。大鏡に授中納言、又みしき。赤坂の上より入。これ
人といふ。ゆゑひ、初めをいふなり。此云云。

板抄に悉くをんものをもと

り雲のかりかりもる目久

是後河漢

のなまけうかきと

そとくみまふとふとおの

あそ雪いふと二そ毎

りてあきふたれに

里をきつて中をき

分利をなする爲めの日

成程子學

夕血を又あやちうげさ

五十六

七百年余

右近大將透繼母比抄云透繼母中納言長良口三代没五位下

惟岳孫太衙門仕倫寧女也
 母山城守恒基女也東三奈
 入道兼家公号海無院攝政之
 室本朝宣今義人三人内
 大鏡云云深奥古傳寧
 乃わのひとあ服そわ
 はきく遠路どうく
 く大御そよてをつて有
 おもたぬりき母人といへり
 家乃遠いひもかものさき
 世より先きなり



三ノ由

の意ひと打撃くきくわあ云何云はあきくくろり門をあくるる云
 けはふとゆふと歌にけいりわあ乃明く同いふくろくき物と
 おのり光るなりとれとの娘のみなをばくすてまおろし
 を上あふの娘はあきくわあ事の娘はあきくわあ
 くとまきとて侍と云大鏡云云の言れをわりて云いと無わ
 くとおほきなりて「あきくわあ」の歌なりはのやまを
 明くくくくくろりなり

同年
 儀同三司母 前掌侍貴子
 高内侍及於き山あ云高階
 兼忠後号高位女也中園白
 道隆公室儀同三司伊周
 公中宮定子木之母也云
 大鏡云 高内侍事それハ



儀同三司母

まことききまゝてゆゑの他又ふい文をまつればとよ
このあこははちうてこそさきてゆゑ儀に三月伊周
物志徳二年四月有るまた建大宰府凡そ物志徳別卷同
三年四月有る京号師内大臣儀同三司云云愚案轍原抄
師内大臣伊周歸京之後寛弘二年列朝參大臣下大納言上五年
進大臣賜封戸千戸自称儀同三司云云後同三司に三
儀同に云ん伊周よりありてこのくを代もは是儀
あるゆゑ云從一位の后儀同三司と云各別なる
新古今意三中國白道隆なるいふゆりなるはと奇に所記
初めてあてていふゆりなるはしとちきりてもさきり
て此事ハ大なるききもなれはく、此事をいふては
虎の如きともなれようと云んをいふと云と云物云
くと祭つといふはゆりなくやうき奇の内傳也

十六

大納言公任 号西条大弼言

賴公号清慎公孫三条政

大臣潁忠公廉義子也母

代明親王女也權大納言

二位云云大錢云按察大納

言么任とやハ小野乃官の

孫氣王并のるま

さきよりいふやうに

堂不堂大井河越溪の岡

新云四傳大空何乃真

いふ おもしろい

そをきこふては思ふ

驕子之文也

大綱云云

漸乃生

卷之六

三

名

各

わん

くまおろしおとろ

舟と作て各五_ル斗

又可^{キル}繁^マ小^コ大^{ダイ}納^{ナツ}

九のききまへららる

[illegible]

永壽永是



ほ於き意三ちれいゝとゆりまゝ人のものにははら
れぬわ所んをばくせんをきり甲一領い世の介とハナ世
より味況ちんかてハ死んせんたうのくなん来世すの
おひひ世は今まわすりよとてぬあそそやうなうん
えんとこめてゑあるやう一と二と云河原切のゑある
んとはるゝ

同年

紫式部

号安楽寺上東門院女房

源氏物語作者

勸修寺元弘良門乃東中

細て兼備て後孫越前

當時の女之母持は守の信

乃女之太清つ依宣孝又嫁

とて太成三位とせりはあ

あ云 尊日殿 山宮殿 山方

紫式部

先づりあひ

乃やそれ

わぬぬ

三ノ八



ふきの月

從位倫子左大臣雅信女

の官女なりお能て上東門院みは云い云式ア

と号まらたて成中子云云式アと云三流わりの八源氏物語の中より云

の云と流る甚深まのぬいぬをゆり二五八東院の乳母の子

あり上東門院よりしむとてわゆりのまの云と云一めと云

さういふまのぬいぬをむきけぬと云二流云けぬ式アと云

云云此云あすそそ後まのゆりけぬの字云あそあ所を

云云はあはれ行儀あそ

初て今難上はやくうわそそをゆりゆりまゝのうい

けあひうわの云て七月初月二二ひてかりゆりま

れハ云はやりとて首の云いぬハあはれまゝゆりま

よりぬとハ云ゆり月のあそりわすてけまゝりてあひ

初よりういハてゆりあひまゝといつはぬゆりま

いふまゝとてあひまゝ人なれぬいぬあひてあひ

つあねりあひいわぬまゝは云化よりあひ月の中

兼盛子作者部類云
 大和守赤條時勝子実
 平魚盛女云袋中子云
 赤條時赤條時用女也
 依歷右衛門尉志亦号赤
 條衛門実兼盛女也
 離別彼母之後有女子
 欲尋取之処母惜而終不然而後時用密通弥終非兼盛
 子之由深終時用云云又云江記云良暹云和泉式ア赤條共
 以奇仙也但赤條應鳥司殿御屏几十二首之中十首秀奇
 又高陽院奇人之時多秀奇如屏風式ア不可使人及云
 無名抄委紫式ア日記云丹後守の方と八官展わたりを
 母八臣衛衛門と云いひゆりよんやんとききやとあつぬと



後にはくさううを後とて方の事につくしめしめおとこ
 えうかきりへさうきありうのさうれう物きにはす
 よゆをれ云

板板さき三中の園内おめをきりさきさううさうさふものひ
 たりたりなりそのあてさきあつはやくせんかりかたりて後
 そのあてさうさうはあてさきあつはやくせんかりかたりて後
 中園目役兄弟女忌給後彼女奉意園白目暮卷上南面廉詠居然
 同直衣人奇来者甚女有悦心會合其後夜々来但曉夕無車馬音
 以長緒著封着直衣袖朝此緒留南庭樹上其後無来直是魁之
 所為族又懷妊臨期產一胎夜開見之多有血無他物云見赤は記
 云とてこは族さういひゆりよんやんとききやとあつぬと
 云とすしやさういひゆりよんやんとききやとあつぬと
 云とすしやさういひゆりよんやんとききやとあつぬと
 云とすしやさういひゆりよんやんとききやとあつぬと

をねをたふあふをーとうーいひやりりりかててをふねと
りりふとてとうをんをのきまてあふれりあふるれ人をま
たはいて月ををてあふひやうふあふあふやいふてね
あふあふのあふいさうー月とあふあふあふ 松永松

六百八十年余

小式部内侍 上東門院女房

此物玄樛諸兄十一世孫樛

仲遠孫和泉守道真子

作者欲以六陸與守之云

三條関白教道公の御子

あじろ袋中子後拾遺

ありて通乃才堀門の左座
ヨリ

此字之乙係由恆字

よるくちり定家密教云小

式の内付

たむくの

とれどき

三

おのゝ



三

式の内付和束式アウミヨマて加ふりすゝ世よりわてふ
 野々道のとく々々きのおろくささうゆるむめさ

今京雜上の泉式ア保昌よりて母はのまゝゆりきり此於み合
のありたる小式ア内侍等よりいされてゆきりと申す定れ
なりといふて来て言へうせきを母は二人にけしんや
けしひかうてとびぬるありとあるあかさんをもそけられ
てききりけしめとあるくはちえ泉式ア泉式よりては
友原保昌母はさうしてさうかくて下わしきよりてそれ
こは友人の人よりいられることいふべきをいふにはおかしき事
く前のよき母の本意式アいふまで我が言ふすると言事のゆ
ゆゆりきりにはありとひかる決定れていふとき後等はい
きよぬといふてのころいふはさかたなることなりといふ
れよりて人のいふいふもとりしむる必要なき事あり
くといふなりや いふ人々若きはあり

昨迄大いハ母は路の入口に多ねのうへにありし新衣今う
 大に心かき月乃けうておね田の面は最う二令と候もいふ
 ハ母はの奥之大に心き候もいふハ母は路のとてさやいんて
 母は招き一のうへにまじり候もいふとハいふもいふ
 人もあり道とのほひとまじり候もいふハ母は路のとて
 さんやけいひいふとまじり候もいふとまじり候もいふ
 てとまじり候もいふとまじり候もいふとまじり候もいふ
 みろろ招き候もいふとまじり候もいふとまじり候もいふ
 心通とはみ けうりやまろろ招き候もいふとまじり候もいふ
 おねハきいふとまじり候もいふとまじり候もいふとまじり候もいふ
 のいふいふとまじり候もいふとまじり候もいふとまじり候もいふ

七百手余
 伊勢力太師 上東門院書房
 此お大中臣能宣孫糸主輔親為伊勢親王
 初を系才二系院の内田のハきさうハ人のまじり候もいふ

此おはゆりきれ其心を散
 てうよ光と候もいふとまじり候もいふ
 云 袋中子云伊勢太師上東門
 院中宮と申時親王系輔親
 うひとめ云いひらんと
 云 袋中子云伊勢太師上東門
 院中宮と申時親王系輔親
 うひとめ云いひらんと



極度中と云い候もいふとまじり候もいふ
 云 袋中子云伊勢太師上東門
 院中宮と申時親王系輔親
 うひとめ云いひらんと
 云 袋中子云伊勢太師上東門
 院中宮と申時親王系輔親
 うひとめ云いひらんと

はかとなりぬ説ある

奈良都八元明天皇より先仁孝七代乃初より方き都なれはふ
一人のときりふに治物なるの極乃その末より何ひういふと云
の治物して二文四はあつと云うそくひをきと云ふ八を極と云てき
ぬ九きといふや又都さるゝと云に奇物の終極と云うの事八て
性のもを平上の終極といふ
と云ふ

清和納言

むと云て

もれ

後

あつた

ゆ



三十三

曰前 用其姓字清安和子
清和和言 松重帝作云

清原深養父曾孫元輔子

也二条院皇后宮定子

中園白道隆の女房也愚案

榮花物語は二条院

の女房の御景舎 定子妹

はまけをきり中保は是八皇子長保四年八月よりこれせめ
後の事より下り初めきのは母に母の初よりみあられとあり
う得えと哲言教王の縁起よりみ守りて清和納言出雲
帝のりより足置かりありといふきけしとをてふあり
そふりともありと云

松松送報二大納言以成物よりかて得きる心のもののみり
これらといふきよりてはとめてるの本又はよりされてと云ふ
そて得ききはあつてと云ふりのすい御物の園のこころといひ
なりきと云うこれら御物の園はけりとおまはるめりき
ものなきはとされてといひ御物よりかて得きる心のもののみり
御物の園のこころといふは御物の園のこころといふは
きりあつたれてのりき御物の園のこころといふは
人といふきき御物の園のこころといふは御物の園のこころといふは
ものなりき御物の園のこころといふは御物の園のこころといふは

[illegible]

八音集卷之八
左宗文道雅 童名松君

三位中為榮花物語

師內左丘修周公子母

大德寺源重光女天孫

二年七月卒ス云々袋中子

玄道雅三位八師內大臣

唇の息也八糸の山莊
の篠子の弦み音今二

よまゝめて撰ひて是

とうとひつゝ能く差寄る所花水ソナヒラ流ユリニテれるを求むるお病
悟終遠玄三俣勢の命を乞ふなりありてゆるぎなく
志のひてのよひをくる所おかやきもきこへめてまより
めをもつけさせゆひて無ひえどうよく守りぬれはともほき
ふ云々愚業ば客過の事榮花物語玉村タチノムラ本錦シメ四半木の

九氣更道雅

今

どういふ

人

子

もろ



平子也住三井寺平等院保
 安年任定普寺座主修験
 各徳人也又讀世産物云
 平等院の傍に寺と三井
 寺とあはせりや久しき
 談及ておはせりや少に
 園樂などやあつたり
 大峯葛城はる幸あて
 春三國く山をさへくおこひひて何の院もね院あつ
 き謹持傍をさへくき禁秘抄云多所院中何れも傍に風
 仙作定張柳隣勝歟云云物云或説白河院猶子云云元亨尺
 書は後朱雀院時藤原景殿女御延子の貴子なりや云
 令榮難上大峯にふおひひやまに楊のさくりたるをさへ傍に
 物云大峯行きの沢邊の峯と云てまのつとハ峯のふひといひ

三ノ十五

大僧正行尊



秋金六邊の峯と云りそハ峯の筆をさへあひひけぬ楊と保と云のす
 又あるれと云りある人
 前ふつ物云たりかへあつ人もありはに今我と云たりかへ
 ある人ありてふと云すこれ我よりあはる人ありと云
 心もわくこれれもるをわかれと云ていふと小峯院の山三井
 寺と保院の山と云も別と云の山と云やうては峯よりあつ
 かこなりし物ありもか保楊と云ふ山と云のまゝと云ふ
 今見ゆる一物と云のまゝと云ふ人の名と云ふと云ふと云
 うと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 足あり云々

六百半余年
 同坊内侍 号仲子 由物屋冷泉院女房
 孫安藝守重義孫周防守總仲女云々 大系圖同之作者部類云

辛未 三条院 諱居貞在位
五年

冷泉院 才二皇子母
贈皇太后超子東三

条入道兼家公女天延

四年正月三月降詔

和三年七月十六日東宮

今日元聖二歲 寛弘八年六

月十三日受禪 永承四年

十月十六日即位長和五年正月廿九日讓位 四十二歲 寛仁元年

二月廿九日出家法名金剛淨 同五月九日崩 四十二

年於遂難上例ありてありて位をさるんやあり

まは月のあつてさうさうして云云 しかるに帝は月

となくせぬのとき方候の事なく候もいせぬの事と云

院あるせぬのてつ月と云はれと云うことあり

三條院



の月々

まやまひより金持丹と云葉をうさうと云ふことあり
いふ人へくめさるやいふことありと云ふ極は極めあり
とのまはあつてやまらういふのりてたふのりとうと
いふやうなうらなひありと云ふことありと云ふことあり
や云ふことあり ふうとあてとんのかまとのいふことあり
はとの遠くいふことありと云ふことありと云ふことあり
今もかゝることをいふ禁中のいふことありと云ふことあり
と云ふことありと云ふことありと云ふことありと云ふことあり
ありぬさせぬと云ふことありと云ふことありと云ふことあり
と云ふことありと云ふことありと云ふことありと云ふことあり
三條院のうらうらりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
と云ふことありと云ふことありと云ふことありと云ふことあり
も定がつていふことありと云ふことありと云ふことありと云ふことあり

有りて自懷中錦小袋を元かす其の中は鑑骨一節あり
 云是ハわ室宝なり松栢の格はくかききの鑑骨也と云す時
 節信喜悦甚て又自懷中紙はひ初と云ふす兩之足母がれ
 る雖も是ハ井の陸は信云若く感歎甚て後懷中鑑骨を
 ば於邊秋下永義四年月裏の所へ金云云云云云云云云
 雲の云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
 の錦と云ふ事なりと云て後懷中鑑骨ありと云て云云云
 う松栢なりと云云云云云云云云云云云云云云云云云
 くる秋の鑑骨の三雲の云云云云云云云云云云云云云
 而の鑑骨と云ふ云云云云云云云云云云云云云云云云
 の鑑骨へ是ハ云云云云云云云云云云云云云云云云

六百十年余

良暹法師

作者の類云父味詳知実方家高主女白菊
 祇園別當云云云云云云云云云云云云云云云云云云

三ノ女一

原より下又抄めは鑑骨

然も後れおとり俄は下る

人々をて内々答ふは良

暹法師云云云云云云云

人々をて内々答ふは良

暹法師云云云云云云云

或僧語云障子良暹

法師云云云云云云云

ひもあるは時云云云

何れは良暹法師云云

云云云云云云云云云

事ありと云云云云云

おれは鑑骨の云云云

りてと云云云云云云

良暹法師

さう

やど

うら

い

あ

あ



極於選秋上まのあつと云ふ内物と云はて又まより君のまより
 云こまそ樹なりとおのひ能くどく哥人へ作はつてもおの秋
 のみえられらるるを云ふく樹より亦樹きき毎なる下は
 くらむ秋の夕暮と云ふ甚は乃感情を感り及らむと云ふ
 是は選秋新十首の内は定家以下の歌は秋よをさるるも
 出さるば軍のまゆと
 我れとたり哥へは言とたりと

大御言の信

六百五十年
大猷言經信
号桂大納言大系高

敦突親王曾孫中納言源道

方子俊賴之父也母孫國盛
女作者於教女大宰師云家
中子云經信其母也八四余大納言
了其母也不為人也云云八雲山抄云

中
 信
 大言信
 門思乃
 いふえ
 ちがふ
 くの
 みる
 みる
 みる

五ノサニ

信信とうゑを趣き書は奉るありきんやうゆひりや律と存て
 ゆひをりしうとて下は是とやと定むらんやうい河院の
 松造えうはかり信信は松造きかりう通俊とてこの日と
 代の不害之又云凡中よりありあるい道は信信人とも
 信信ちうハ西の地とまう一のやうハ別的事にあはて死と
 さうして死と云ふかりきりたにこれらハ公達の地と
 いひぬるやうとはあの人をいふ事なりて定事懐はるるに
 事ありぬては松袋中子やと言のふ事ありた今若は云ふ
 院大井河邊の田乃ありの物なり師氏マ信信は云ふに
 おうきりきり河院西河は幸乃田村宮後信の三乃船とて
 道のとわらふをいふやう信信は通俊の月御内をき河
 なるめとてありきりてよりをさう三事くぬるきりて
 はさくやいれのあきりともせしといふなりありはとて
 かりといふなり母通俊とてそれとて後信のあはて

と新きけりたり三よのころはと云

金葉集秋師賢抄下の栴の山里より人々よりて田舎荒れと云
るを後ろくたされよと云ふ物云々たれよあるいさうに後ろく
ふあり毎々のふききりや後ろくたされよと云ふ物云々たれよある
ふききりや後ろくたされよと云ふ物云々たれよあるふききりや
其門田の栴葉はタタレの秋門よりくと云と云ふ物云々たれよある
て其の屋よをと云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある
秋門よりと云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある

六百年余
祐子内親王家紀伊 号宮紀伊金葉

皇女母宮嬪子敷康親王女也才男宮るれ其の后殿の女
乃云るれハ云と云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある
今中ハ云紀伊とあり紀伊葛原親王より八代孫能成孫
後必下傳女

金葉集秋師賢抄下の栴の山里より人々よりて田舎荒れと云
るを後ろくたされよと云ふ物云々たれよあるいさうに後ろく
ふあり毎々のふききりや後ろくたされよと云ふ物云々たれよある
ふききりや後ろくたされよと云ふ物云々たれよあるふききりや
其門田の栴葉はタタレの秋門よりくと云と云ふ物云々たれよある
て其の屋よをと云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある
秋門よりと云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある



上の人々後と云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある
おと云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある

祐子内親王家紀伊

金葉集秋師賢抄下の栴の山里より人々よりて田舎荒れと云
るを後ろくたされよと云ふ物云々たれよあるいさうに後ろく
ふあり毎々のふききりや後ろくたされよと云ふ物云々たれよある
ふききりや後ろくたされよと云ふ物云々たれよあるふききりや
其門田の栴葉はタタレの秋門よりくと云と云ふ物云々たれよある
て其の屋よをと云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある
秋門よりと云ふ物云々たれよと云ふ物云々たれよある

保延四年出家法名覺愛
又後成心奇作之三条
家一流の如きの秘あり和派
又人そ新撰朗詠相撰
恒月抄恒為方信校抄木地
方り定家正代秀秀文ちく
八云々分びるをちくし信家
親王後とちくする人あとも
くちま書の世の也一き定
比人の智ひをてはくする
ん云々定家初云云後と云物
も義難字上傍於光光維摩
衆の大臣大臣より人やきり
とれ又なれ六法うけり

三ノサ六

維摩經云云事根源云云十月十日より十六日までは七ケ日の乃無極寺
にて維摩經と稱する於十六日大猷冠の忌日なり又也大猷冠の忌
日明大匠よりさくわき大衆をおと維摩經と云其經の中より
「摩訶と云所のり是と後彌」のけい病をさせあひんとしに
ずりておひ二と彌とより又彌一のけい病をさせあひんとしに
たは藝者人掌してせと世と大衆より後せんと思ひぬ小は又維摩
と云ふは彌と云ふのせれてとより事ありて 維摩經註
維摩者梵語也此云淨名三惑已淨即是真身名新周編即是應
身此經是淨名居士所說故云維摩經所說經云 淨師のうを
とへるは維摩經の淨師ハ名氏の云ふの方なるみなりて是も法體
寺と通及後師のうけるなりと云ふれどもある一云云云云云
心與總寺維摩會共聽衆九月中旬僧經簡定先經藤原氏長者
定之但專寺僧より者待被送名簿請用云云云云云云云云
新本 ひとねめとのちうけうとさうとさうわき世のけいわん

よりハ親王のちふにハ何に松のめ忠通と世におけられたるもの
を標葉原下野を

ささ七ハ達ありてあまのささもあゆみあふみの忠通とのれ
をのめと契りなすひいさせもあゆみのさされんと有て
こととせし池いもうあふみのさされとあふみの秋も例の
秋とありてあふみのささめあふみの秋も例の秋とありと後あふ
ちいさなふみのささめあふみの秋も例の秋とありと後あふ

五百三千年余

法性寺入道前関白大政大臣

忠通公法性寺三三三三三

法性寺入道前関白大政大臣

五

代孫知足院関白忠實のちも母從一位明子六条右大臣房のち
也保安三年三月五日関白詔即聽牛車同月氏長育同三年十二月七日
左大臣從一位西寺正月廿八日為拱政大治三年十二月十七日任大政大臣同四年七
月相拱政為関白永治元年十二月七日又為拱政迎衛天皇受禪
月久安六年二月九日又改拱政為関白康治三年八月十一日上衣詩関白應

三三三

三年六月八日於法性寺

別業出家法名即觀法性

寺於秋抄云九条河原身

信公建立總繼物語才者

後中みくこのまき云はけ

保安二年四月関白よりせ

治のちふまておけりき

同四月四月は後代の帝位は

法をあらけり拱政より

由りたれはちあて関白より

一院位は法をあらけり

あふみの拱政よりけり

あふみの拱政よりけり

あふみの拱政よりけり

あふみの拱政よりけり



法性寺入道前関白大政大臣

忠通公

法性寺

入道

前関白

大政大臣

忠通公

法性寺

入道

前関白

大政大臣

忠通公

法性寺

乃ととのと宗隆院の末つゝよりやうく又あるゆゑなりと後世
 隆物院云々といふまゝと云ふより今と云ふと云ふは其の
 後後継を云ふ因の奇縁と母人の名に因りて判せざるは其の
 中より奇縁なりと云ふ中より判せざるは其の
 中より奇縁なりと云ふ中より判せざるは其の
 中より奇縁なりと云ふ中より判せざるは其の

初集集難下新院位よりなり内浦上桃々と云ふは其の縁せあり
 きりよめりなり新院を宗隆院なり奇縁なりと云ふは其の
 中より奇縁なりと云ふ中より判せざるは其の
 中より奇縁なりと云ふ中より判せざるは其の
 中より奇縁なりと云ふ中より判せざるは其の

三十八

年五十八帝 詩院仁在位十八年
 崇徳院

鳥羽院外二皇子母待賢門
 院障子大納言公実女也元

永二年五月九月降詔保

盛年正月廿八日為太子

即受禪 同二月十九日即

恒大治四年元服 永治元年

三月七日讓位三保元元年七月

三月於仁和寺出家同九月後

生後後園長寛二年八月廿六日於配所山崩 平六 進芳崇徳院

初花堂上野ありて其のまゝと云ふなりと云ふは其の縁せあり

二月と云ふは其の縁せありと云ふは其の縁せあり

せりといふは其の縁せありと云ふは其の縁せあり

ありといふは其の縁せありと云ふは其の縁せあり



まはるをさうしうけりて
もり来ぬハあえんとあえ

六百余年

源兼昌 宇多天皇苗裔 敦

実親王六代孫養濃守俊輔

子也從五位下皇右宮大進

堀河院は百首の作者也

金葉冬秋園海子とあ

る源俊朝をさふふふふふふの浦は旅ねをて旅つるりあの子は

てをさふふふふふふふの浦はつる一葉の旅ねをさふふふふの

夢東のぬさぬさささささささささささささささささささささ

らりねさあぬんとんの字ささささささささささささささささ

五百年手余

九京大支顯輔

六条家世奇之孫

藤原興名苗裔孫は守道經

三ノ廿九

あさくら源
うさくら源
うさくら源
うさくら源
うさくら源
うさくら源
うさくら源
うさくら源
うさくら源
うさくら源



孫六余修理太夫顯季三男

清輔重家歌昭法師ホ之

又有家知家ホ之祖父有り

後成りて歌ハ歌輔の妻子

よて歌廣とやせし凡

とほよあさめて基後の

月とさうあさり袋中子

云訓化集新院 崇徳院

清譲位之後故右京歌輔

一人撰きて元元年六月二日奉之云云

郭右今秋上崇徳院は百首の秋をりさう時ささふふ所説凡

またさひささささささささささささささささささささささ

さささささささささささささささささささささささささささ

さささささささささささささささささささささささささささ

ささささささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ



跡見学園女子大学短期大学部図書館



鹿嶋の心持をいふにふまゝに可也

三十一

三十一

29626

